

# 姥ヶ原・下原山南・ 下原山北遺跡

(第2次発掘調査)

諏訪南インター原村工業団地予定  
地内埋蔵文化財包蔵地発掘調査概報

1990. 3

長野県原村教育委員会

# 姥ヶ原・下原山南・ 下原山北遺跡

(第2次発掘調査)

諏訪南インター原村工業団地予定  
地内埋蔵文化財包蔵地発掘調査概報



## 序

近年、我が国では道路、工場、住宅用地造成、農業用地基盤整備など土地開発の件数が著しく増加し、それに伴い埋蔵文化財の緊急発掘調査件数も急激に増加しているといわれています。

そのような中で、この姥ヶ原遺跡、下原山南遺跡、下原山北遺跡も中央自動車道西宮線諏訪南インターチェンジに隣接する諏訪南インター原村工業団地造成工事に先立って発掘調査が行われたものであります。

これらの3遺跡は昭和63年度に確認調査を行い、その結果により、姥ヶ原遺跡についてはその大部分を造成計画から外し、下原山南遺跡、下原山北遺跡についてもその一部分は緑地帯として現状保存が行われるなど、開発側の協力により遺跡保護のための処置がとられました。

そして工事予定地域内は発掘調査を行い記録保存をするという結果になりましたが、考古学上貴重な数多くの研究資料を得ることができました。

発掘調査から報告書刊行までの間、御指導、御尽力いただいた長野県教育委員会はじめ関係者各位に感謝と御礼を申し上げ序といたします。

平成2年3月30日

原村教育委員会

教育長 平林 太尾

## 例 言

- 1 本報告は、長野県諏訪郡原村葛瀬沢に計画されている諏訪南インター原村工業団地予定地内埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、原村土地開発公社の委託をうけた原村教育委員会が、平成元年4月1日から12月28日にかけて実施した。整理作業は、平成2年1月6日から3月31日まで行った。
- 3 現場における記録は平出一治・伊藤証・平林とし美、写真撮影は平出、図面の作図とトレースは平林、執筆は平出・伊藤・平林が話し合いのもとに行った。
- 4 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。

なお、本調査関係の資料には、姥ヶ原遺跡は51・下原山遺跡は87・下原山北遺跡は88の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、長野県教育委員会文化課指導主事小林秀夫・声部公一・百瀬長秀・児玉卓文、井戸尻考古館館長武藤雄六・小林公明の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

## 目 次

序		
例	目	
目	次	
I	発掘調査の経過	1
	1 発掘調査に至る経過	1
	2 調査組織	5
	3 発掘調査の経過	5
II	調査の方法	8
	1 調査区の設定	8
	2 調査の方法	8
	3 調査の概要	8
III	調査の成果	11
	1 姥ヶ原遺跡	11
	2 下原山南遺跡	18
	3 下原山北遺跡	26
IV	結 語	35
	参 考 文 献	

# I 発掘調査の経過

## 1 発掘調査に至る経過

諏訪南インター原村工業団地予定地内の遺跡保護については、姥ヶ原遺跡（原村遺跡番号51）の規模・性格などが不明なまま、昭和62年6月5日に行われた「原村工業団地造成事業に係る埋蔵文化財保護協議」で協議された。出席者は長野県教育委員会文化課・原村土地開発公社・原村教育委員会の3者であった。

予定地は172,000㎡と広い上に山林で、尾根幅は広く標高は960m前後を計り、当地方における縄文時代の遺跡立地に適している地域である。近くには大石・山の神などの大遺跡が存在していることなどが注意された（表1・第2図）。それは、昭和50年度から中央道の建設に先立って発掘調査が実施された阿久・大石・居沢尾根の大遺跡が山林であったこともあり、調査が進むまでは、これほどまでの大遺跡と考えることができなかったことが教訓となっている。そんなことから、姥ヶ原遺跡以外にも遺跡の存在は充分考えられる地域であった。

しかし、今までにしっかりした分布調査・発掘調査をしたことがなく、資料不足なこともあり適切な結論を導き出すことはできなかった。したがって、姥ヶ原遺跡の範囲と、新遺跡の有無を確認することが課題としてのこされ、昭和63年10月21日～11月22日に試掘を伴う遺跡確認調査を実施した。その成果については、すでに報告書を刊行したが、遺物の出土状況と地形を考慮した中で、姥ヶ原遺跡はその範囲を想定し、新たに発見した下原山南遺跡（原村遺跡番号87）と下原山北遺跡（原村遺跡番号88）についてもその範囲を想定した（第3図）。

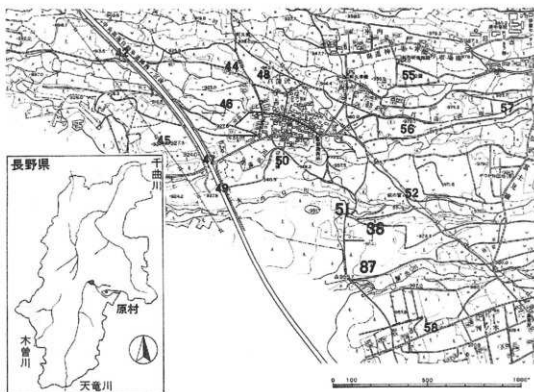
その後も協議を進め、遺跡は現状のまま保存するのが最も望ましいことから、一部計画変更を行い、姥ヶ原遺跡は、その全域が計画地となっていたが、取り付け道路部分の調査を実施するとどめ、その多くを計画地から外し現状保存した。下原山南・下原山北遺跡は、緑地帯として現状保存できる範囲を当初計画より広くしたが、工業団地造成という目的から、どうしてもその多くは記録保存した上で工事を実施することとなり、平成元年4月1日～12月28日に緊急発掘調査を実施した。



第1図 原村城の地形断面模式図（赤岳—姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡—宮川ライン）

表1 姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡と付近の遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後							
42	居沢尾根					○					○		昭和50～52年度発掘	
44	原山					○					○		昭和50年一部破壊	
45	広原日向	○			○	○					○		昭和58年度発掘	
46	宿尻					○								
47	ヲシキ		○	○							○		昭和51年度発掘	
48	榎の木					○							昭和53年一部破壊	
49	大石	○	○	○	○						○	○	昭和50年度発掘	
50	山の神					○	○				○		昭和54年度発掘	
51	姥ヶ原					○	○						昭和63・平成元年度発掘	
52	水掛平					○					○			
55	中尾根					○	○							
56	家前尾根					○					○		昭和51年一部破壊	
57	久保地尾根					○							昭和51年一部破壊	
58	判の木										○			
87	下原山南					○	○				○		昭和63・平成元年度発掘	
88	下原山北					○	○	○			○		昭和63・平成元年度発掘	



第2図 姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)



第3図 遺跡範囲想定図 (1:6,000)





第4圖 原村工業団地計画範圍圖・地形圖 (1:6,000)

調査中にも協議を行い、下原山南遺跡の住居址発見地点は埋め戻した上で緑地帯として保存し、下原山北遺跡はひとまず緑地帯として造成から外れたが、誘致企業の考えによっては造成されることになろう。

## 2 調査組織

### 姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡発掘調査団名簿

団長	平林太尾（原村教育委員会教育長）							
調査担当者	平出一治（原村教育委員会）							
調査員	山形真理子（東京大学大学院）		伊藤 証（原村教育委員会）					
調査補助員	平林とし美	関 喜子	原 敏江	小松とよみ				
調査参加者	菊池利光	小池修次	小林静子	藤原智恵子	宮坂とし子			
	五味としえ	中村順子	中村ふさえ	長田秋子	五味けさき			
	篠原文子	藤原いちえ	中村美子	野明昭子	時田源弘			
	平出みづほ	藤原米子	加藤カク	清水武治	五味 清			（順不同）
事務局	原村教育委員会事務局		行田竹輝（教育次長）	武田伊都子（庶務係長）				
	大口美代子（主任）		宮坂道彦	伊藤 証	平出一治			

## 3 発掘調査の経過

- 平成元年4月1日 発掘準備をはじめ。下原山北遺跡の表土剥ぎを重機ではじめる。
- 4月7日 グリッド設定をはじめ。
- 4月11日 教育長挨拶の後、機材の搬入とテント設営を行う。D地区からグリッド発掘をはじめ。遺物の発見は少なく1グリッド2～3点。
- 4月14日 EG-58グリッドで住居址と思われる落ち込みを認め、付近のグリッド発掘を行う。
- 5月2日 DX-56グリッドで住居址と思われる落ち込みを認め、付近のグリッド発掘を行う。EG-58グリッド他の落ち込みを住居址と確信し、便宜上第1号住居址と呼ぶことにする。
- 5月22日 DX-56グリッド他の落ち込みを住居址と確信し、第2号住居址と呼ぶことにする。
- 5月25日 下原山南遺跡の表土剥ぎを重機ではじめる。
- 5月31日 第2号住居址の検出写真の撮影を行い、平面発掘をはじめ。

- 6月1日 DM-62グリッド他で小竪穴を検出し、南側半分の平面発掘を行う。
- 6月5日 下原山南遺跡のグリッド設定をはじめめる。
- 6月7日 下原山北遺跡 EB-54グリッドで集石1を検出する。  
午後からは、下原山南遺跡の性格を把握するためのグリッド発掘をはじめめるが、遺物の発見は少なく1グリッド2～3点。
- 6月12日 今日から、下原山北遺跡の調査を再開する。
- 6月13日 DS-58グリッド他で第3号住居址を確認し、検出作業を進める。
- 6月30日 雨の日が多く、また、20日から御射山地区県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査がはじまったこともあり、作業員は半数となり思うように作業が進まない。
- 7月20日 第3号住居址の検出写真の撮影を行う。
- 7月24日 第3号住居址上層の礫の実測をはじめめる。
- 7月26日 第3号住居址の平面発掘をはじめめる。
- 7月28日 小竪穴の検出と平面発掘をはじめめる。検出した小竪穴は数多い。
- 8月3日 第1号住居址南半分の遺物出土状況の写真撮影を行い、遺物の取り上げを行う。第3号住居址の完掘写真の撮影を行い実測をはじめめる。
- 8月9日 第2号住居址の完掘写真の撮影を行う。
- 8月17日 第3号住居址の埋蔵のカットニングを行う。
- 8月18日 第1号住居址北半分の検出作業を進める。
- 8月22日 第2号住居址、小竪穴の実測をはじめめる。
- 8月25日 第1号住居址北半分の検出写真撮影を行い、礫の実測をはじめめる。
- 8月28日 第1号住居址北半分の平面発掘をはじめめる。
- 9月5日 第1号住居址の完掘写真の撮影を行い実測をはじめめる。  
伏襲のカットニングを行う。
- 9月7日 第1号住居址の埋蔵のカットニングを行う。  
下原山南遺跡のグリッド設定をはじめめる。
- 9月8日 下原山南遺跡のグリッド発掘をはじめめる。
- 9月21日 御射山地区県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査が終了し、作業員が多くなる。
- 9月25日 DT-57・DU-57グリッドから縄文中期初頭の一個体分の土器が出土する。後日の調査で小竪穴38に伴うものであることが判明した。
- 9月27日 EU-57グリッドから特殊磨石と礫が出土する。便宜上集石1と呼ぶことにする。
- 10月4日 DI-40グリッドの落ち込みを住居址と確信し、第1号住居址と呼ぶことにす

- る。付近のグリッド発掘を行い検出作業を進める。
- 10月5日 下原山北遺跡の発掘調査全域の写真撮影を行う。これで調査は終了する。
- 10月6日 DB-40グリッドの落ち込みを住居址と確信し、第2号住居址と呼ぶことにする。付近のグリッド発掘を行い検出作業を進める。
- 10月24日 第1号・第2号住居址の検出写真の撮影を行い平面発掘をはじめめる。
- 11月2日 第1号住居址の炭化物と礫出土状況の写真撮影を行う。
- 11月10日 第1号住居址の炭化物と礫の実測を行う。
- 11月14日 集石全域の写真撮影を行う。
- 11月17日 小竪穴の検出と平面発掘をはじめめる。
- 11月21日 第1号住居址の完掘写真の撮影を行い実測をはじめめる。
- 11月27日 第2号住居址の完掘写真の撮影を行い実測をはじめめる。
- 12月6日 第1・2号住居址は緑地帯として残せることになり、第2号住居址から埋め戻しをはじめめる。
- 12月7日 姥ヶ原遺跡の道路部分の表土剥ぎを重機ではじめめる。
- 12月8日 姥ヶ原遺跡のグリッド設定をはじめめる。
- 12月12日 姥ヶ原遺跡のグリッド発掘をはじめめる。
- 12月15日 姥ヶ原遺跡 BK-75・77グリッドから礫が出土する。
- 12月19日 BK-75・77グリッド付近のグリッド発掘を進める。
- 12月21日 下原山南遺跡の調査が終了する。  
姥ヶ原遺跡の礫は敷石（部分）住居址であることが認められ、第1号住居址と呼び検出作業を進める。
- 12月22日 検出写真の撮影を行い、実測を進めながら礫・敷石の取り上げを行う。寒冷地における12月下旬の調査で、やや粗い調査になってしまった。
- 12月25日 小竪穴1を検出し平面発掘を進める。
- 12月26日 機材の撤去を行う。
- 12月27日 第1号住居址の完掘写真の撮影を行い実測をはじめめる。
- 12月28日 第1号住居址の実測を行い姥ヶ原遺跡の調査は終了する。

## II 調査方法

### 1 調査区の設定

発掘に先立ち、姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡と東西南北に軸を合わせたグリッドを設定した。東西方向には50mの大地区を設け、西からA区・B区・C区・D区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。大地区の中をさらに2×2mの小地区(グリッド)に分割し、東西方向は西からA-Yのごとく区分した。南北方向には算用数字をふったが、遺跡の中心と思われるラインを51とし、そのラインを基準に南方向は50・49・48というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方向は52・53・54と大きくなるように振分けた。

個々のグリッドの呼びかたは、たとえば第7図の姥ヶ原遺跡道路部分の上方(北)に位置する2×2mの発掘グリッドでみると、大地区はB区であり、小地区の東西方向はTラインにあたり、南北方向が101ラインで、それは「T-101」となる。したがって小地区の前に大地区を表記した「BT-101」となる。

### 2 調査の方法

発掘調査の対象は、諏訪南インター原村工業団地造成予定地にかかる3遺跡で、姥ヶ原遺跡は取り付け道路部分、下原山南と下原山北遺跡は造成予定地である。

あらかじめ昭和63年度に遺跡確認調査を実施し、遺物の散布範囲がわかっていたこともあり、重機で表土剥ぎをした後に、原則としてソフトローム層上面まで層別別に行った。

遺物は、基本的にグリッド別・層別別にとり上げ、遺構に伴うものは遺構別に取り上げた。

測量は、予め設定した2m四方のグリッドを基準とするやり方方式による。

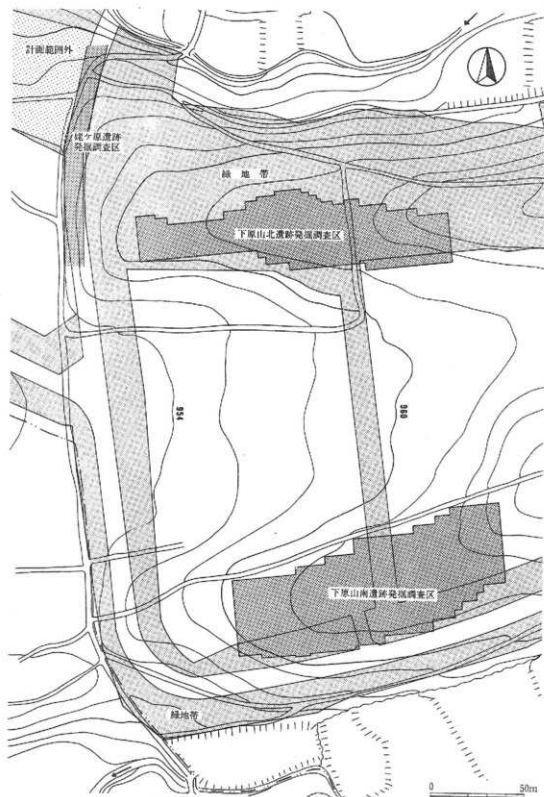
### 3 調査の概要

本調査で発見した遺構の分布状況は、姥ヶ原遺跡は第6図、下原山南遺跡は第11図、下原山北遺跡は第12図に示したが、発見した遺構は次の通りである。

#### 姥ヶ原遺跡

縄文時代後期竪穴式敷石住居址	1軒
縄文時代後期小竪穴	1基

調査面積が一番少なく、発見した遺物も少ないが、後期前半のものである。



第5図 発掘調査区域図・地形図 (1:2,000)

#### 下原山南遺跡

縄文時代中期竪穴式住居址	2軒
縄文時代中期小竪穴	41基
縄文時代中期集石	7基
縄文時代中期単独土器	2点

住居址は中期後半の曾利式であるが、小竪穴の中には中期初頭の九兵衛尾根式の土器を伴出するものもある。遺構を検出するまでに至らなかったが、縄文時代早期と平安時代の遺物の発見もある。

#### 下原山北遺跡

縄文時代中期竪穴式住居址	3軒
縄文時代中期小竪穴	131基
縄文時代中期集石	1基

住居址は中期後半の曾利式で、集落形態は馬蹄形とか環状と呼ばれているものようである。遺構を検出するまでに至らなかったが、縄文時代後期の土器破片と平安時代の土師器の破片の発見もある。

発掘調査は、下原山北遺跡、下原山南遺跡、姥ヶ原遺跡の順に実施したが、本書では、原村遺跡番号の早い姥ヶ原遺跡、下原山南遺跡、下原山北遺跡の順で報告したい。

### III 調査の成果

#### 1 姥ヶ原遺跡

##### 1) 位置と環境

姥ヶ原遺跡(原村遺跡番号51)は、八ヶ岳西麓の長野県諏訪郡原村菖蒲沢にあって、菖蒲沢集落の南500mに位置している。東の八ヶ岳から流下する矢の口川と蟹出川によって北と南を浸蝕された東西に細長い台地が、遺跡の東方約500mで二つに分かれる。その二つのうち遺跡は北側の尾根で、矢の口川に面した緩やかな北斜面に立地する。これより西は、約1,000m先でホッッサマグナの西縁である糸魚川一節岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られる。

標高は950m前後を測り、地目は山林である。この付近一帯は畑地として利用された時期もある。長野県教育委員会が昭和54年度に実施した八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査の折に、地主の五味富重氏から耕作中に土器破片と磨製石斧を発見したことを聞いている。その調査から小字名である姥ヶ原遺跡と呼称するようになり今日に至っている。なお、磨製石斧は現在原村教育委員会に保管している。それ以前の昭和49年に、諏訪清陵高等学校地歴部考古班が実施した分布調査で、縄文時代中期末葉の曾利式と後期の土器破片を採集し、狹沢日影遺跡と呼称していたときもある。

##### 2) 土 層

第7図のグリッド配置図に示したように、33グリッド132㎡の平面発掘を層別別を実施した。

本遺跡における層序は、根と林道による攪乱が多少みられたが、基本的には次のとおりである。おおまかな観察結果を記しておきたい。

第Ⅰ層 黒色土層 表土層で15cm前後の厚さである。重機で取り除いた。

第Ⅱ層 真黒色土層 グリッドによって厚さはまちまちで10~30cmを計る。本層が遺物包含層である。

第Ⅲ層 黒褐色土層 やはりグリッドによって厚さはまちまちで10~20cmを計る。

第Ⅳ層 褐色土層

第Ⅴ層 ソフトローム層

##### 3) 第1号住居址

遺跡の東南外れて検出した。BJ-75-77、BK-75-77、BL-75-77の6グリッドに跨る柄鏡形を呈する竪穴敷石住居址である。林道による攪乱が著しく、床面に達している個所もあり、その保存状態は良くなかった。



住居址は、北西方向に緩やかに傾斜する斜面からの検出で、東壁と南壁が僅かに残存しただけで、平面形を明確にすることはできなかったが、壁の状況と柱穴の位置関係からみて東西に長い楕円形と思われる。竪穴の大きさは東西(480)cm、南北(390)cmである。

敷石部は、敷石が少なく縁辺にみられる他は散在的で、やはりその形状を明確にすることはできなかった。比較的しっかりした縁辺の敷石と竪穴の形状からみて、東西420cm、南北320cmの楕円形ないしは多角形になるものと思われる。張り出し部は、大きな平板石を据え付けたしっかりしたもので、幅90cm、長さ145cmである。敷石の石は、当地方で産出する輝石安山岩と鉄平石である。鉄平石は12点使用されていた。敷石の無い床面は堅いタタキ床状ではなく、さりとて敷石が抜き取られたという積極的な痕跡も見出せなかった。

壁の立上りはあまり良くない。壁高は東壁6cm、南壁10cmを計る。床面は前記したようにタタキ床は一切認められず軟弱で、やや北方向に傾いている。柱穴は9本あり、それらは径35-75cm、深さは25-64cmである。炉の東に接する径40cm、深さ13cmの穴の性格はわからない。炉西方の長径120cm、短径106cm、深さ55cmの穴は、上面に石組状の石があり、埋土中にも握り拳大の石が数多くみられた。これに類似するものは、原村の山の神上遺跡第3号住居址(敷石住居址)にあるが、性格についてはわからない。炉はほぼ中央に埋篋炉がある。埋篋土器付近の焼土は薄く、土器内では殆ど認められなかった。

発見した土器と石器は少ない。

土器は縄文時代後期の堀之内式である。炉に埋設されていた胴上半を欠損する無文土器と、深鉢・鉢・注口土器の破片がある。石器は定角磨製石斧の破損品1点、石皿の破損品1点、凹石4点が出土した。石製品は翡翠の玉1点で、小さな自然石で穴は穿たれていない。

#### 4) 小 竪 穴 1

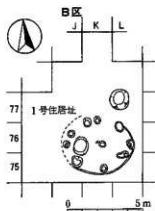
1号住居址北方のBK-77グリッド他で検出した。長径138cm、短径122cmの不整形円で、深さは33cmを計る。埋土は住居址と同じ黒褐色土で、小竪穴と住居址は同時期のものであろう。

遺物の発見は皆無であった。

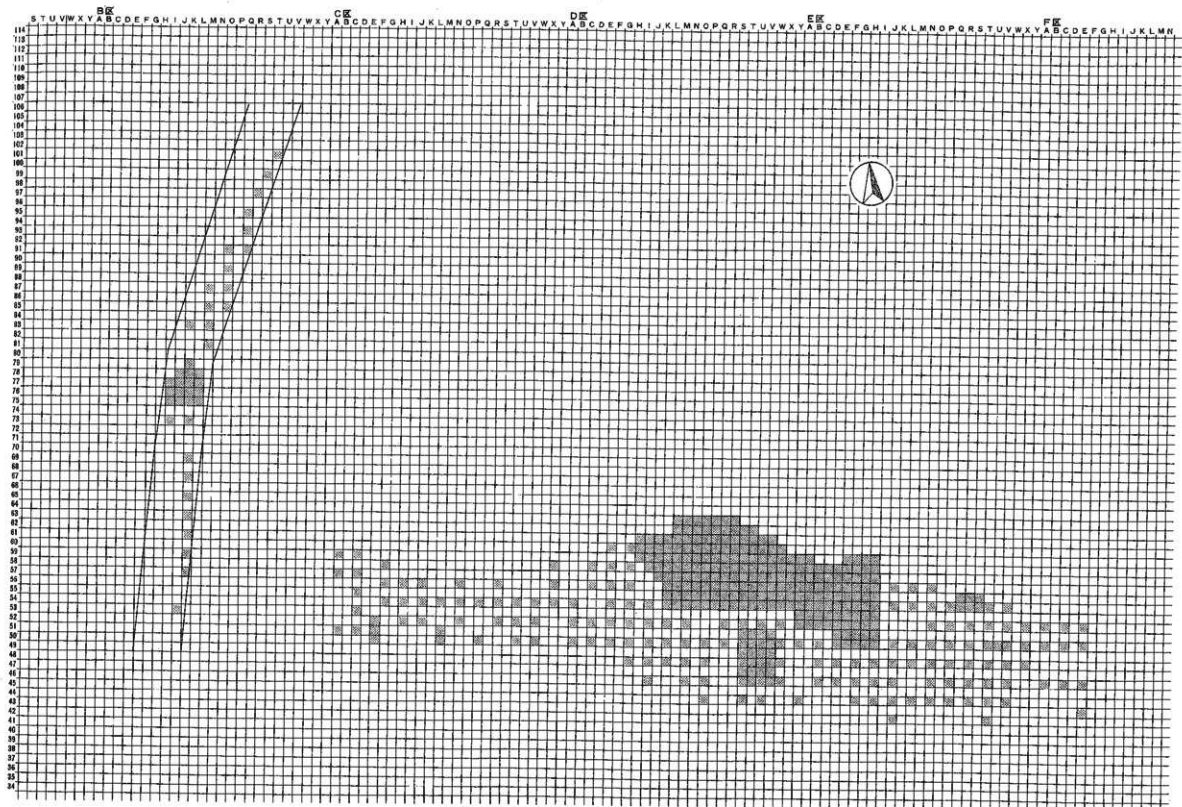
#### 5) ま と め

姥ヶ原遺跡は、取り付け道路部分という限られた範囲の調査で、住居址1軒と小竪穴1基を発見した。遺跡の広がりからみて、住居址と小竪穴は遺跡の東南外れに位置するものと思われる。

住居址は、あまり整然としたものではなかったが、柄鏡形敷石住居址であり、張り出し部が北側に付き、この張り

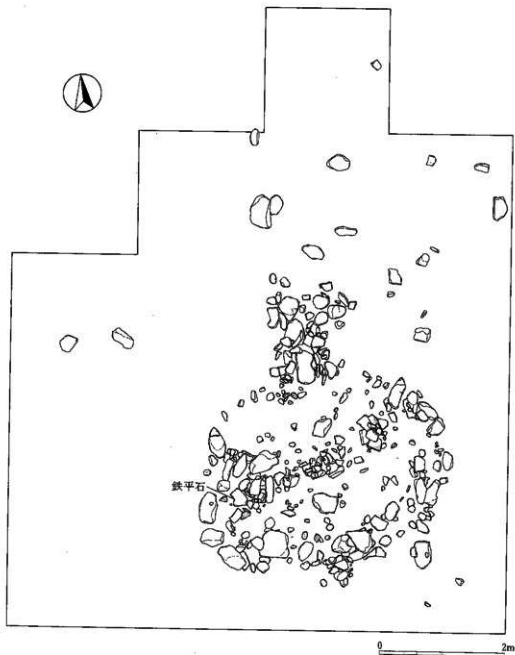


第6図 姥ヶ原遺跡遺構配置図  
(1:250)

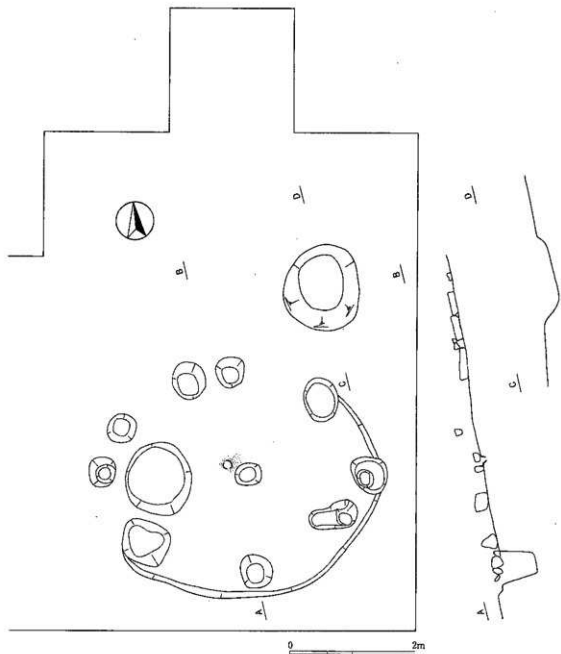


第7図 姥ヶ原・下原山北遺跡グリッド配置図 (1:800)

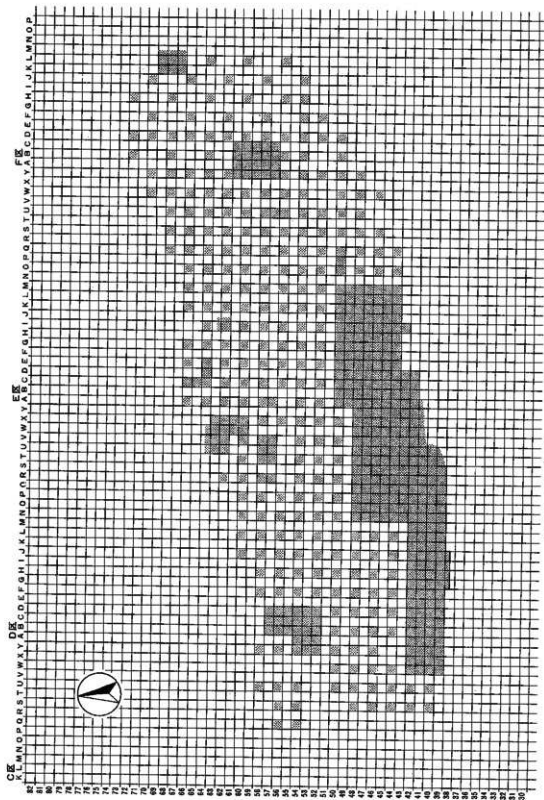
し部を入口と考えたとき、本址の入口は北側に付いていたことになる。これは本址が構築されている地形からは理解できても、当地方のような高冷地の冬期間を考えたとき理解できない点があり、はたして、本址で日常生活が営まれていたか考えさせられる堅穴であった。



第8図 姥ヶ原遺跡第1号住居址敷石実測図 (1:60)



第9図 姥ヶ原遺跡第1号住居址・小竪穴1実測図(1:60)



第10図 下原山南連絡グリッド配置図 (1:800)

## 2 下原山南遺跡

### 1) 位置と環境

下原山南遺跡(原村遺跡番号87)は、昭和63年度に実施した諏訪南インター原村工業団地内遺跡確認調査で発見した遺跡で、姥ヶ原遺跡の南東方300m、下原山北遺跡の南方200mに位置する。

本遺跡の西方200mには、昭和49年に諏訪清陵高等学校地歴部考古班が実施した分布調査で、縄文時代中期の土器破片と土師器の破片を採集した下原山遺跡が茅野市地籍に所在している。地形的にみて本遺跡と下原山遺跡が同遺跡とは考えられないが、相互関係が無かったとはいきれない位置関係にある。

姥ヶ原遺跡で記載したように、二つに分かれた南側の尾根上に立地する。標高は960m前後を測る。地目は山林で、人為的な擾乱を受けたことがなく、非常に良好な状態であった。

### 2) 土層

第10図のグリッド配置図に示したように、627グリッド2,463㎡の平面発掘を層別別に実施したが、内80㎡はIII層上面までの調査で打ち切った。

本遺跡における層序は、根による擾乱が多少みられたが、人為的な擾乱はなく整然としていた。地点によって厚い薄いの違いはみられたが、基本的には次のとおりである。おおまかな観察結果を記しておきたい。

第I層 黒色土層 表土層で15cm前後の厚さである。重機で取り除いた。

第II層 真黒色土層 グリッドによって厚さはまちまちで10~30cmを計る。本層の中程ないしはや下層に、握り拳大から人頭大、それより大きな石があり、これより上層が縄文時代中期の遺物包含層である。石は自然現象ではない、集石・列石のような規則性こそなかったが人為的なものである。

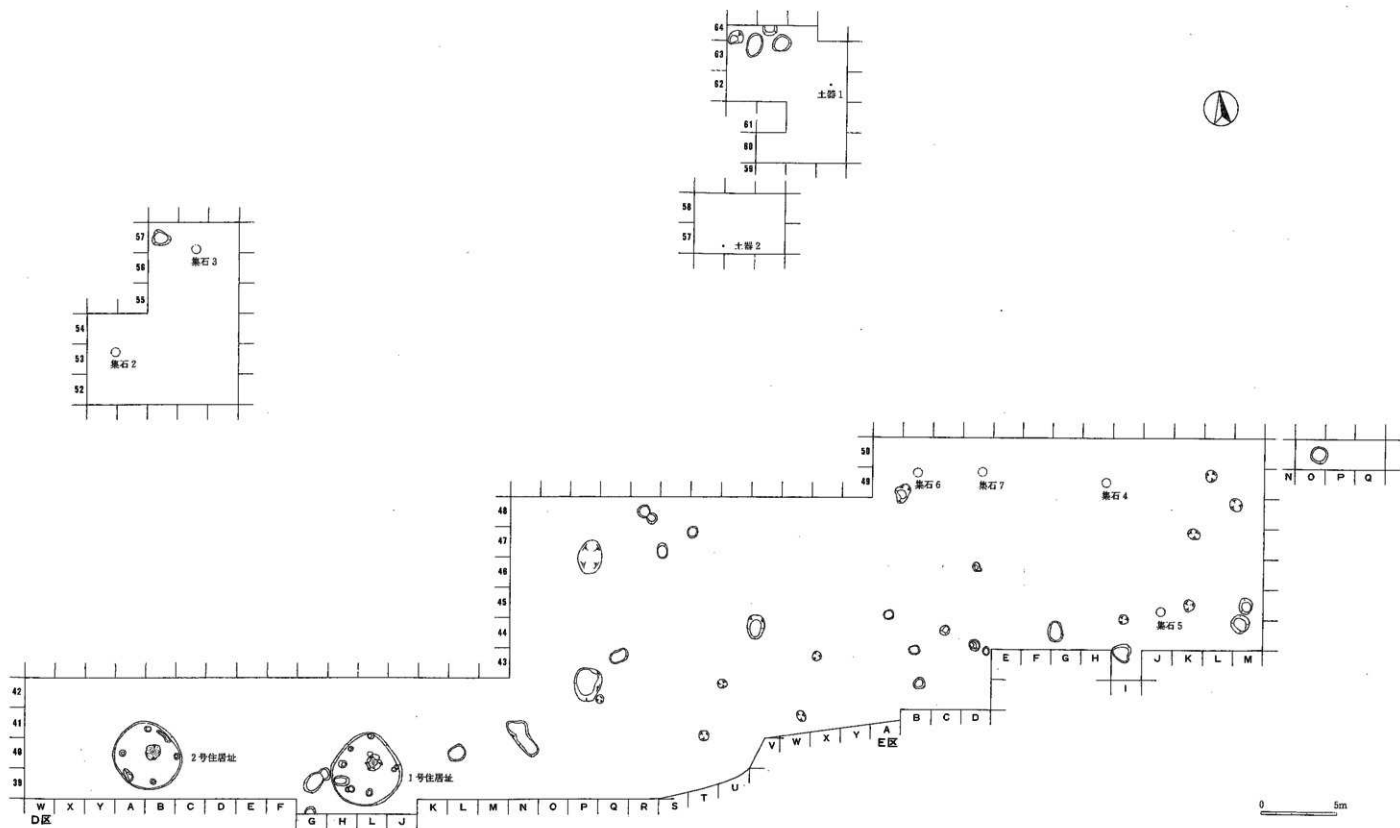
第III層 黒褐色土層 やはりグリッドによって厚さはまちまちで10~20cmを計る。本層下層から第IV層の褐色土で遺構の落ち込みを認めたがプランを明確にするまでに至らなかった。縄文早期の遺物包含層である。

第IV層 褐色土層

第V層 ソフトローム層

### 3) 第1号住居址

DH-38~41、DI-38~41、DJ-39・40の10グリッドに跨る不整形円形を呈する竪穴住居址である。埋土は、逆三角堆土と三角堆土が発達した自然埋没と考えられるものであった。北壁近くから



第11图 下原山南進跡遺構配置圖 (1 : 250)

は径13cm、長さ75cmと、径12cm、長さ84cm位の炭化材が発見された。その大きさ遺存状況から柱材と思われる。この他にも大小様々な数多い炭化材が発見され、本址の廃棄は焼失によるものであろう。

竪穴の大きさは長径460cm、短径450cmとやや小さい。壁の立上りは普通である。南壁付近は根による擾乱が著しく、不明瞭となり掘りすぎたきらいがある。壁高は北が高く南が低くなり8~26cmを計る。床面はほぼ水平で、部分的にタタキ床が認められるが、総体的には軟弱であった。柱穴は7本で、主柱は4本と考えられ、柱穴際には石がそれぞれ据えられていた。南壁近くの柱穴は2本あり、入口部施設のものと思われ、やはり石が据えられていたが、この石は、他の柱穴際の石とは違い埋め立てられた状態であり、立石とも考えられる。炉は中央奥壁寄りに方形切り炬燵状石囲炉が構築されていた。東・北・西の三方は大きな平板石5個を立てたもので、南は柱状の石2個を据え付けた焚き口部である。それらの石の間隙には小さな石が詰められたしっかりしたものである。西際に碗状に凹んだ自然石が据え付けられていた。その凹みには磨滅や敲打痕は一切認められなかったが、その据え付け状態からみて、器として機能していたことは容易に考えられることである。炉の内径規模は80×80cmと普通の大きさで、炉内の焼土は厚い。

発見した土器と石器は少ない。

土器は縄文時代中期後葉の曾利Ⅲ式で、床面から出土した両耳把手付の甕と深鉢の破片がある。石器はスクレイパー1点、石槍1点、石匙1点、打製石斧1点、局部磨製石斧1点、乳棒状磨製石斧の破損品2点が出土した。

#### 4) 第2号住居址

1号住居址の西方、CY-40、DA-39-41、DB-39-41、DC-39・40の9グリッドに跨る不整形円形を呈する竪穴住居址である。

埋土は、逆三角堆土と三角堆土が発達した自然埋没と考えられるものであった。

竪穴の大きさは長径460cm、短径430cmとやや小さい。壁の立上りは普通で、壁高は北が高く南が低くなり18~38cmを計る。床面はほぼ水平のタタキ床である。東と西の壁際床面直上には、人頭大からそれより大きな石が、壁にそって並べられた状態で発見された。性格については不明である。北壁直下には部分的に周溝がある。柱穴は4本ですっきりしている。炉は中央奥壁寄りにいわゆる竪穴炉がある。この炉は方形切り炬燵状石囲炉の石が抜き取られたものと思われ、床面直上には炉石と思われる焼成を受けた平板石が放置されていた。炉内の焼土は厚い。

発見した土器と石器は少ない。

土器は縄文時代中期後葉の曾利Ⅲ式で、深鉢の破片がある。石器は打製石斧4点、凹石1点、磨石1点が出土した。



### 5) 小 豎 穴

図示できなかったが表2に示したように、41基の小豎穴を検出調査した。遺物が伴出した小豎穴は少なかった。中期初頭の九兵衛尾根式土器は比較的多くまとまっていたが、末葉の曾利式は小破片ばかりであった。

なお、表中のカッコ付けの大きさは、重複した小豎穴で現存部分である。

表2 下原山南遺跡小豎穴一覧表

番号	検出位置 グリッド	平 面 形	規 模			埋土の状態・出土遺物など
			長径	短径	深さ	
1	EO-50 EP-50	円 形	114	112	34	含ローム黒褐色土から含ローム褐色土 (自然埋没)
2	DP-46 DP-47 DQ-46 DQ-47	楕 円 形	222	162	46	含炭化物ローム黒色土から含ローム黄褐色土 (自然埋没)
3	DG-39	楕 円 形	(156)	104	25	小豎穴32と重複、含ローム黒色土から褐色土 (自然埋没)
4	DL-40	隅 丸 方 形	120	102	25	検出面で弱い焼土、含炭化物焼土ローム褐色土
5	ED-43 ED-44	円 形	78	78	31	黒褐色土
6	EC-44	円 形	65	65	25	褐色土、土器破片 7
7	ED-43 ED-44	円 形	48	44	23	褐色土、土器破片18、打製石斧1、黒曜石剥片 1
8	EB-43 EB-44	楕 円 形	77	64	12	褐色土
9	DU-44 DU-45 DV-44 DV-45	楕 円 形	168	116	29	含炭化物ローム黒色土から含ローム褐色土 (自然埋没)
10	EB-42 EB-43	不 整 楕 円 形	82	72	12	
11	EL-44 EM-44 EM-45	円 形	124	122	43	黒色土から含炭化物ローム色土 (自然埋没)、土器破片16、黒曜石剥片 4、輝緑凝灰岩剥片 2、硬砂岩剥片 1
12	EL-47 EL-48 EM-47 EM-48	円 形	85	84	15	含ローム黒色土

13	EK-45	円形	74	66	25	含ローム黒褐色土、打製石斧 1
14	EM-45	隅丸方形	108	88	32	含ローム褐色土
15	EK-47	楕円形	80	68	21	褐色土
16	EL-49	円形	76	74	23	黒褐色土
17	EI-44 EI-45	円形	64	63	15	含ローム褐色土
18	EI-43 EI-44	不整形	126	118	19	含ローム黒色土
19	EF-44 EG-44	隅丸方形	142	102	29	含ローム黒色土から含ローム黄褐色土(自然埋没)、浅鉢(半個体)、土器破片24、打製石斧 1、黒曜石剥片17、硬砂岩剥片 1
20	EA-44 EA-45	円形	70	62	14	褐色土
21	DX-43	円形	60	56	13	褐色土
22	DW-41	楕円形	74	52	12	褐色土
23	DT-42 DU-42	円形	60	58	25	
24	DT-40 DT-41	隅丸方形	68	60	13	
25	DS-47 DT-47 DT-48	円形	78	68	17	
26	DS-46 DS-47	隅丸方形	102	88	29	
27	DR-48	隅丸方形	76	(72)	20	
28	DR-48	隅丸方形	84	(72)	18	定角形磨製石斧(破損品) 1
29	DP-42 DP-43 DQ-42 DQ-43	隅丸方形	230	182	38	
30	DF-42 DQ-42	円形	64	52	16	褐色土
31	DM-41 DN-40 DN-41	隅丸長方形	282	138	28	黒色土から含ローム褐色土(自然埋没)
32	DG-39 DG-40 DH-39	円形	82	(62)	27	小竪穴 3 と重複
33	DG-38	隅丸方形	72	(42)	21	

34	DQ-43	隅丸方形	124	86	20	
35	DB-57	隅丸方形	116	96	24	
36	DV-63 DV-64 DW-63 DW-64	円形	128	110	30	含炭化物ローム褐色土
37	DV-64	隅丸方形	90	(56)	30	含ローム褐色土
38	DU-63 DU-64 DV-63 DV-64	楕円形	166	105	29	含ローム黒褐色土、深鉢1、打製石斧1
39	DU-63 DU-64	隅丸方形	106	82	32	含ローム褐色土、土器破片1
40	EA-48 EA-49 EB-48 EB-49	不整形	140	98	33	
41	ED-46	不整形	70	62	45	

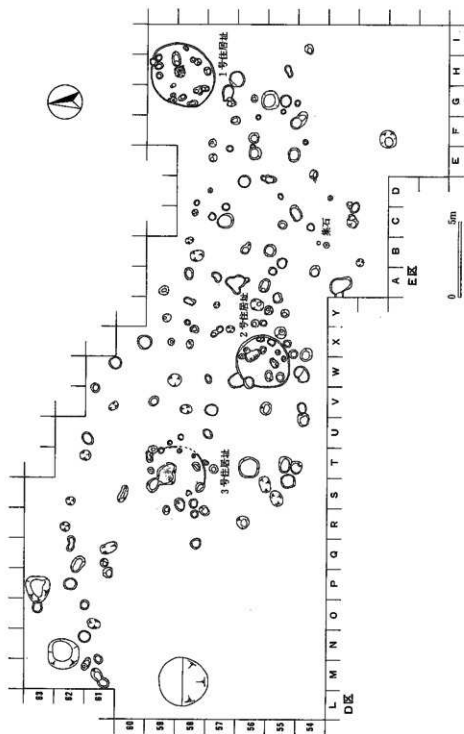
## 6) 集石

図示できなかったが表3に示したように、7基を検出調査した。

集石1は縄文時代早期の特殊磨石4点がまとまっていたものである。集石2～7は広範囲に石が散乱するなかで、比較的集中した箇所である。土器の伴出はなかったが中期のもと思われる。

表3 下原山南遺跡集石一覽表

番号	検出位置 グリッド	平面形	規模			出土遺物
			長径	短径	深さ	
1	EU-57		38	32	10	特殊磨石4 (内1点は凹石)
2	CY-53 DA-53		67	64	7	
3	DC-56 DC-57	円形	78	61	22	
4	EH-49	楕円形	98	74	23	
5	EJ-45	楕円形	100	71	23	凹石3
6	ED-49 ED-50	円形	80	78	15	凹石1
7	EB-49 EB-50	円形	118	110	16	



第12図 下原山北遺跡遺構配置圖 (1:250)

## 7) ま と め

下原山南遺跡は、縄文時代早期と中期初頭の遺物も発見しているが、中心となるのは中期後葉の曾利Ⅲ期である。

中期初頭は、土器を伴う小竪穴を発見したが、対象地区内で住居址を検出することはできなかった。北西800mに立地する大石遺跡との関係が深かったものと思われる。

後葉の曾利Ⅲ期は、小竪穴・集石・住居址2軒を調査した。重複する遺構の発見は少なく、また、遺物の発見も当地方としては少なかった。住居址は対象地区の西南外れからの発見で、南方の取り付け道路部分については、傾斜が強いこともあり重機で表土剥ぎを行ってみたが、住居址を検出するまでには到らず、西方の緑地帯は尾根の先端部にあたり、そう多くの住居址が埋没しているとは思えないことから、本遺跡は極めて小規模集落であると思われる。

## 3 下原山北遺跡

### 1) 位置と環境

下原山北遺跡（原村遺跡番号88）は、下原山南遺跡同様に昭和63年度に実施した諏訪南インター原村工業団地内遺跡確認調査で発見した遺跡で、姥ヶ原遺跡の東方100m、下原山南遺跡の北方200mに位置する。

姥ヶ原遺跡で記載したように、二つに分かれた北側の尾根上に立地する。標高は965m前後を測り、地目は山林で、人為的な攪乱を受けたことがなく、非常に良好な状態であった。

### 2) 土 層

第6図のグリッド配置図に示したように、416グリッド1,644㎡の平面発掘を層別別に実施したが、内144㎡は石の発見が比較的多かったグリッドであり、石が包含されていたⅢ層上面までの調査で打ち切った。

本遺跡における層序は、根による攪乱が多少みられたが、人為的な攪乱はなく整然としていた。地点によって厚い薄いの違いはみられたが、基本的には次のとおりである。おおまかな観察結果を記しておきたい。

第Ⅰ層 黒色土層 表土層で15cm前後の厚さである。重機で取り除いた。

第Ⅱ層 真黒色土層 グリッドによって厚さはまちまちで15～30cmを計る。下原山南遺跡同様に、本層の中程ないしはやや下層に、握り拳大から人頭大、中には52×80cmを計る大きな石があり、これより上層が縄文時代中期の遺物包含層である。石は自然現象ではない、集石・列石のような規則性こそなかったが人為的なものである。

第Ⅲ層 黒褐色土層 やはりグリッドによって厚さはまちまちで10～20cmを計る。本層下層

から第IV層の褐色土で遺構の落ち込みを認めたがプランを明確にするまでに至らなかった。

第IV層 褐色土層

第V層 ソフトローム層

### 3) 第1号住居址

EG-57~59、EH-57~59、EI-58・59の8グリッドに跨る楕円形を呈する竪穴住居址である。

埋土は、逆三角堆土と三角堆土が発達した自然埋没と考えられるものであった。

竪穴の大きさは長径452cm、短径400cmとやや小さい。壁の立上りは普通で、壁高は西が低く東が高く5~10cmを計る。床面はほぼ水平で、部分的なタタキ床が認められるが、総体的には軟弱であった。柱穴は2~3回に亘る重複がみられ17穴と多いが、主柱は4本と考えられる。西南壁近くの柱穴は入口部施設のものであろう。炉は中央奥壁寄りにコの字形の石囲炉がある。この炉は焚き口部の石が取り除かれている方形切り炬燵状石囲炉であり、東・南・北の三方は大きな平板石が立てられている。内径規模は50×55cmとやや小ぶりであり、焼土は厚い。炉と奥壁のほぼ中間に、下半部を欠損する深鉢を用いた伏襲が設置されていた。伏襲の下には長径103cm、短径56cm、深さ28cmを計る楕円形の穴がある。西南壁際には、口縁部を欠損する深鉢を用いた埋襲が正位で埋設されていた。蓋石はない。

発見した土器と石器は少ない。

土器は縄文時代中期末葉の曾利V式で、伏襲と埋襲に用いられていたものと深鉢の破片がある。石器は石磯1点、蜂の巣石2点、凹石9点、磨石1点、ピュエスキュー1点が出土した。

### 4) 第2号住居址

1号住居址の西方、DV-55・56、DW-55・56、DX-55・56の6グリッドに跨るタマゴ形を呈する竪穴住居址である。小竪穴119・131と重複するが、新旧関係を明確にすることができなかった。

埋土は、逆三角堆土と三角堆土が発達した自然埋没と考えられるものであった。

竪穴の大きさは長径372cm、短径345cmと小さい。壁の立上りは普通で、壁高は西が低く東が高く8~17cmを計る。床面はほぼ水平となるが、タタキ床は認められず軟弱である。柱穴は8本である。炉は中央奥壁寄りにいわゆる竪穴炉がある。炉内には炉石と思われる平板石1点が発見し、その状況から当初は方形切り炬燵状石囲炉であったと思われる。焼土は薄い。

発見した土器と石器は少ない。

土器は縄文時代中期末葉の曾利V式で、深鉢の破片がある。石器は蜂の巣石1点が出土しただけである。

### 5) 第3号住居址

1・2号住居址の西方、DS-58・59、DT-58・59、DU-58・59の6グリッドに跨る円形を呈する竪穴住居址と思われる。

埋土は、逆三角堆土と三角堆土が発達した自然埋没と考えられるものであった。

竪穴の大きさは径420cm位とやや小さい。プランの確認が遅くなり、東壁だけが遺存する状態であった。壁高は高いところで9cmを計る。床面は部分的にタタキ床を認めたが、西側は不明瞭で掘りすぎ、結果的には西に傾いている。柱穴は15本と多く、支柱は特定できなかった。炉は中央奥壁寄りにいわゆる竪穴炉がある。炉石が抜き取られたものであろう。焼土はそれほど厚くない。西南壁際には、底部を欠損する深鉢を用いた埋裏が正位で埋設されていた。蓋石は僅かにずれていた。

発見した土器と石器は少ない。

土器は縄文時代中期末葉の曾利V式で、埋裏に用いられていたものと深鉢の破片がある。石器は凹石5点、ピュエスキュー2点が出土した。石製品は石棒の小破片があり、同個体と思われる破片がグリッドからも出土している。

### 6) 小竪穴

図示できなかったが表2に示したように、131基の小竪穴を検出調査した。遺物が伴出した小竪穴はすくなかったが、住居址と同時期の中期末葉のものであろう。

なお、表中のカッコ付けの大きさは、重複した小竪穴で現存部分である。

表4 下原山北遺跡小竪穴一覧表

番号	検出位置 グリッド	平面形	規 模			埋土の状態・出土遺物など
			長径	短径	深さ	
1	DM-62 DM-63 DN-62 DN-63	円 形	202	194	44	
2	EG-55 EG-56	隅 丸 方 形	116	112	31	黒褐色土から含ローム黄褐色土 (自然埋没)
3	EG-55	楕 円 形	82	74	10	黄褐色土
4	EG-55	円 形	37	35	6	褐色土
5	EF-54	円 形	80	(72)	31	小竪穴24と重複、黄褐色土、ソフトローム、
6	EE-54 EE-55	楕 円 形	95	78	21	褐色土から黄褐色土(自然埋没)

7	ED-54 EE-54	楕円形	62	50	49	
8	EE-51 EE-52 EF-51 EF-52	隅丸方形	116	102	41	含炭化物ローム黒色土から含ローム褐色土(自然埋没)、土器破片17、黒曜石刹片5
9	EC-52 EC-53	不整形	70	(54)	18	小竪穴10と重複、黒色土
10	EC-53	隅丸方形	52	(42)	5	小竪穴9と重複、褐色土、深跡(底部)
11	EC-52 EC-53	楕円形	84	(52)	27	小竪穴22と重複、含ローム褐色土、黒褐色土、
	ED-52 ED-53					
12	EB-52 EB-53	円形	50	48	5	褐色土
13	EG-56 EF-56	円形	34	30	30	含炭化物黒色土
14	EG-56	円形	38	38	30	含炭化物黒色土
15	EA-56	円形	34	(28)	12	小竪穴43と重複、含ローム褐色土
16	EF-56	円形	74	70	33	含炭化物黒色土
17	EE-56	円形	84	(82)	31	小竪穴21と重複、褐色土から黄褐色土(自然埋没)
18	EE-57	円形	44	43	26	黒色土
19	EE-57 EF-57	円形	50	47	34	黒色土
20	EE-57	円形	52	52	36	黒色土
21	EE-56 EF-56	円形	(28)	40	15	小竪穴17と重複
22	EC-53 ED-53	円形	41	(40)	29	小竪穴11と重複
23	EF-44	円形	41	41	25	
24	EF-54 EF-55 EG-54	楕円形	67	(58)	22	小竪穴5と重複
25	EG-54 EG-55	円形	46	42	14	
26	EI-54	楕円形	68	54	35	土器破片1
27	EH-55	円形	40	(30)	13	小竪穴28と重複
28	EH-55	楕円形	46	(44)	14	小竪穴27と重複



29	ED-56	楕円形	86	80	16	含ローム褐色土
30	EC-57	円形	108	100	37	
31	EC-57 ED-57	円形	50	50	21	含ローム褐色土
32	ED-57	円形	30	28	19	含ローム褐色土
33	ED-58	円形	40	38	40	含ローム褐色土
34	EC-58	円形	50	46	31	含ローム褐色土
35	EC-57	円形	52	52	24	含ローム褐色土
36	ED-53 ED-54	円形	34	33	33	含ローム黒褐色土
37	EC-54	円形	50	49	19	含炭化物ローム黒褐色土
38	EC-54 EC-55 ED-55	不整形	110	74	23	重複?、含ローム褐色土
39	ED-55	円形	46	38	10	褐色土
40	EA-55	円形	54	50	12	含炭化物褐色土
41	EA-55 EB-55	円形	70	70	9	含ローム黒褐色土
42	EB-55 EB-56	隅丸方形	84	74	34	含ローム褐色土
43	EA-56 EA-57	楕円形	92	(68)	22	含炭化物ローム黒褐色土
44	EA-56 EA-57	楕円形	(62)	50	13	小竪穴43・45と重複、ローム褐色土
45	EA-57	楕円形	68	(46)	25	小竪穴43・44と重複
46	EB-56	不整円形	60	56	27	褐色土
47	EA-57	不整形	70	52	21	
48	EB-58	楕円形	96	72	24	含ローム褐色土
49	EB-58	楕円形	61	42	14	
50	EB-53 EB-54	円形	41	40	28	含ローム黒褐色土
51	DY-55	円形	54	48	32	含ローム黒褐色土
52	DX-55	円形	77	77	50	含ローム黒褐色土
53	DT-56	円形	78	76	42	含ローム真黒色土から含ローム褐色土(自然埋没)
54	DX-56 DY-56	円形	48	48	41	含ローム黒褐色土
55	EA-55 EA-56	楕円形	100	66	32	含ローム褐色土

56	DW-54	楕円形	(104)	62	22	小竪穴57と重複、含ローム褐色土
57	DW-54 DW-55	楕円形	84	(48)	13	小竪穴56と重複
58	DV-54	楕円形	(88)	62	5	小竪穴59と重複
59	DU-54 DV-54	隅丸方形	(87)	74	14	小竪穴58と重複、黄褐色土
60	DV-55 DV-56	楕円形	42	70	19	黄褐色土
61	DT-54 DT-55	楕円形	88	72	37	黒色土から含ローム褐色土 (自然埋没)
62	DS-55 DT-55	隅丸方形	92	86	9	含炭化物ローム褐色土、黒曜石剥片1
63	DS-55 DS-56 DT-55 DT-56	隅丸長方形	102	78	15	含ローム黒褐色土
64	DR-56	隅丸長方形	92	74	15	含ローム黒褐色土
65	DX-57 DY-57	楕円形	55	44	23	含ローム褐色土
66	EA-59	楕円形	68	54	34	含ローム褐色土
67	DY-58	隅丸方形	73	44	20	含ローム褐色土、土器破片3、黒曜石剥片1
68	DY-58	円形	42	40	16	含ローム黒褐色土
69	DX-58	隅丸方形	68	54	34	含ローム黒褐色土
70	DW-57 DW-58	隅丸方形	62	42	15	含ローム褐色土
71	DV-57 DV-58	楕円形	92	74	17	含ローム褐色土
72	DU-57 DU-58	楕円形	62	54	17	含ローム褐色土
73	DT-57	隅丸方形	38	39	21	
74	DQ-58	隅丸方形	72	70	16	褐色土
75	DV-59	楕円形	98	62	26	含ローム褐色土
76	DW-60 DW-61	円形	90	87	20	含ローム褐色土
77	DV-61 DW-61	円形	62	60	25	含ローム褐色土
78	DV-60 DV-61	楕円形	70	57	26	含ローム褐色土

79	DU-61 DU-62	楕円形	94	66	13	真黒色土、黒褐色土
80	DT-61 DT-62	円形	72	68	19	真黒色土、黒褐色土
81	DS-62	円形	58	56	16	含ローム黒褐色土
82	DR-62	円形	62	60	18	含ローム褐色土
83	DQ-61	円形	54	52	23	真黒色土、黒褐色土
84	DP-61 DQ-61	不整円形	70	62	17	真黒色土、黒褐色土
85	DP-62 DQ-61 DQ-62	楕円形	118	78	31	褐色土
86	DP-62	隅丸方形	88	74	22	含ローム褐色土
87	DO-61 DO-62	円形	68	68	13	黒褐色土
88	DP-63	楕円形	(160)	70	47	小竪穴89と重複、含ローム褐色土
89	DO-63 DP-63	楕円形	(160)	100	40	小竪穴88・125と重複、含炭化物黒褐色土
90	DT-55	隅丸長方形	110	80	27	含ローム褐色土
91	DS-55	楕円形	102	78	24	含炭化物ローム黒褐色土
92	DO-61	楕円形	86	70	31	黒褐色土
93	DN-61 DN-62	円形	84	80	26	含ローム褐色土
94	DM-61 DN-61	楕円形	68	50	20	黒色土
95	DM-61 DM-62 DN-61	長楕円形	88	72	30	黒色土
96	DM-61	楕円形	(82)	64	15	小竪穴97と重複、黒褐色土
97	DM-61	楕円形	78	(62)	26	小竪穴96と重複、含ローム褐色土
98	DW-58 DW-59	隅丸方形	46	40	17	含ローム褐色土
99	DV-58	楕円形	78	60	21	含ローム褐色土
100	DY-56	隅丸方形	100	80	46	含ローム褐色土、土器破片1
101	DY-55 DY-56	円形	62	58	41	褐色土
102	DY-55 EA-55	隅丸方形	68	64	18	含ローム褐色土
103	DY-56	円形	48	44	18	

104	DX-55	円形	52	48	12	黒褐色土
105	DW-55 DX-55	円形	58	58	30	黒色土、褐色土
106	DW-54 DX-54	隅丸方形	90	78	29	黒褐色土、黄褐色土
107	DX-57 DY-57	円形	50	50	6	小竪穴130と重複、黒褐色土、土器破片1
108	DY-59	円形	58	52	58	黒褐色土
109	DS-60	長楕円形	120	50	46	褐色土、黒色土
110	EA-53	不整形	148	121	33	重複?
111	EF-55 EF-56	隅丸方形	58	51	35	
112	EG-57	隅丸方形	62	(48)	32	小竪穴113と重複、含ローム真黒色土、深鉢(3分の1)、輝緑凝灰岩剥片1
113	EG-57	不整形	104	76	25	小竪穴112と重複、含ローム褐色土
114	EG-56 EG-57 EH-56 EH-57	隅丸方形	105	99	30	真黒色土
115	ED-56 EE-56	円形	36	38	27	含ローム褐色土
116	EC-55	円形	60	56	37	含ローム黒褐色土
117	EA-58	楕円形	79	58	24	含ローム褐色土
118	DY-57	楕円形	44	38	24	
119	DV-56 DV-57 DW-56 DW-57	楕円形	(101)	96	16	1号住居址・小竪穴131と重複、含ローム褐色土
120	DX-58 DY-58	隅丸方形	58	46	38	
121	DX-59	円形	44	42	41	黒褐色土、褐色土
122	DX-59 DX-60	隅丸方形	98	90	22	黒色土
123	DQ-62 DR-62	円形	(54)	50	26	小竪穴124と重複、含ローム褐色土
124	DQ-62	円形	(48)	48	18	小竪穴123と重複、含ローム黒褐色土
125	DO-63	隅丸方形	(78)	78	13	小竪穴89と重複、黒褐色土
126	DQ-61	楕円形		64	31	小竪穴127と重複、黒褐色土

127	DQ-60 DQ-61	楕円形	60	31	小竪穴126と重複、黒褐色土
128	ED-55 ED-56	不整楕円形	76	(56) 29	
129	EA-54 EB-54	隅丸方形	76	66 21	
130	DX-57	楕円形	(54)	38 38	小竪穴107と重複
131	DV-56 DW-56	楕円形	86	68 24	1号住居址・小竪穴119と重複

## 7) 集石 1

図示できなかったがEB-54グリッド、第Ⅲ層の黒褐色土中で検出した。調査の下手際から取り上げてしまった石もある。復原すると径20cmの範囲に、2×2cmから5×7cmと小さな川石を集めた遺構で、掘り込みを認めることはできなかった。土器・石器の伴出はなく、性格についてはわからない。

## 8) まとめ

下原山北遺跡は、縄文時代後期の遺物も発見しているが、中心となるのは中期末葉の曾利V期である。

住居址と小竪穴は、馬蹄形とか環状集落と呼ばれる配置状況を示していたが、重複する遺構の発見は少なかった。また、遺物の発見も当地方としては少く、短期間の集落跡と思われる。八ヶ岳西南麓における曾利V期の集落跡の発見例は少なく、集落研究上の好資料となろう。

## V 結 語

発掘をはじめた頃は、雨、雨、雨、そして雨というように、雨の日が多く、それに、作業員不足という悪条件がかさなり、12月28日まで現場作業を行い、未だに資料分析をするに至っていない。そこで、調査の折に感じたことと反省を記しておきたい。

遺跡が立地する尾根は、下原山南・下原山北遺跡とも立ち木を切ったことによって、分布調査の折に感じたこととは違い尾根幅が広く見えるようになった。そして、遺物は広い範囲から出土するが、遺構を検出できない日が続き、調査範囲をしぼることに苦慮した。

それは調査結果からみて、住居址を検出した地点が、下原山南遺跡は尾根の南側、下原山北遺跡は北側に片寄っていたのに、遺物の出土範囲は住居址や小竪穴を検出した地域より極めて広い尾根全域にわたっていたこと、遺物の出土量が少ない上に集中する傾向がみられなかったことにある。

発見した土器は竪穴の時期と同じで、この遺存範囲が集落の広がりと思われるが、勉強不足からくる集落概念によって、その範囲が理解できなかったことが大きく、大規模開発における集落跡の調査範囲について考えさせられた調査であった。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

### 参 考 文 献

- 1980. 03 長野県教育委員会『昭和54年度 八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』
- 1985. 07 原村役場『原村誌 上巻』
- 1988. 12 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財小報5 原村工業団地内遺跡確認調査概報 姥ヶ原遺跡の確認と下原山南遺跡・下原山北遺跡の発見』
- 1989. 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財15 姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡 諏訪南インター原村工業団地内遺跡確認調査報告書』

写 真 图 版

# 姥ヶ原遺跡

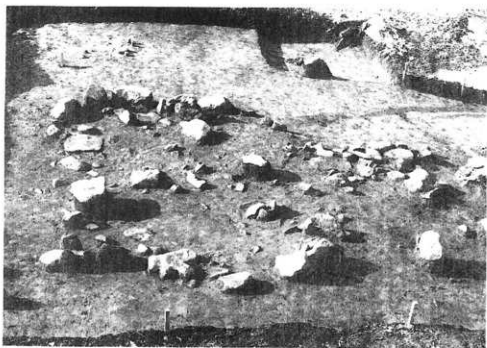


写真1 1号住居址(北から)



写真2 1号住居址(東から)



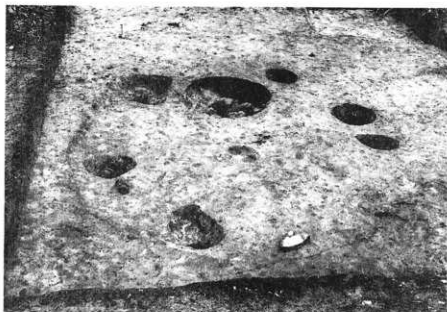


写真3 1号住居址(東から)

写真4 1号住居址土器

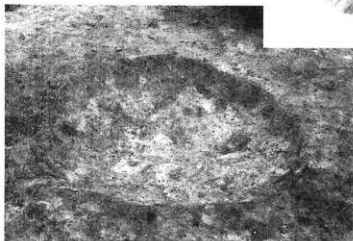


写真5 小 壺 穴 1

## 下原山南遺跡



写真6 下原山南遺跡(西から)



写真7 下原山南遺跡(東から)



写真8 1・2号住居址(東から)



写真9 1号住居址検出状態(北から)



写真10 1号住居址(西から)

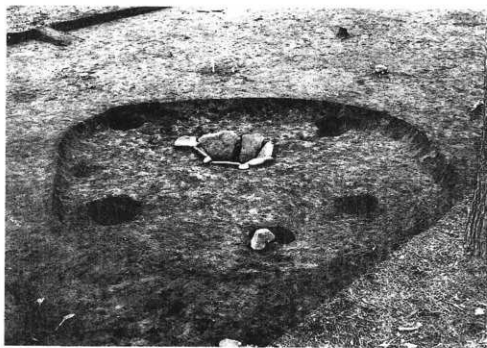


写真11 1号住居址(南から)

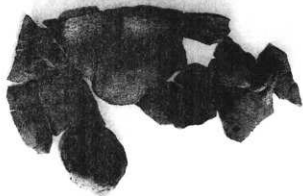


写真12 1号住居址土器



写真13 1号住居址石器  
出土状態 1



写真14 1号住居址石器  
出土状態 2

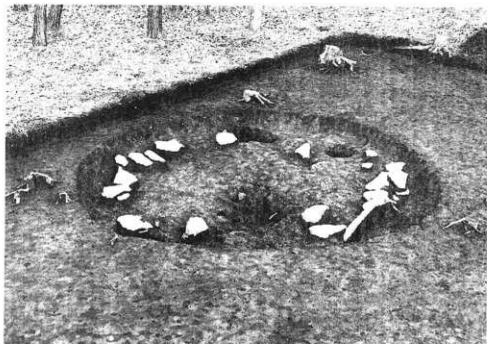


写真15 2号住居址(北から)

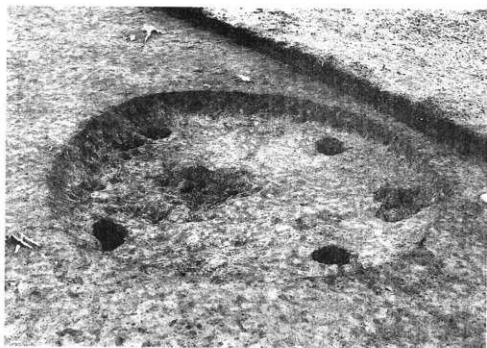


写真16 2号住居址(西から)



写真17 小 壑 穴

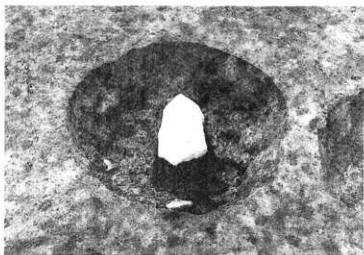


写真18 小 壑 穴 11

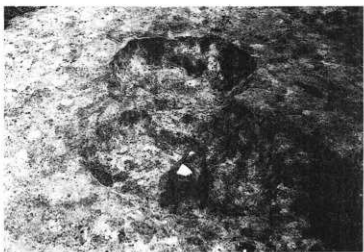


写真19 小壑穴27・28

写真20 小 豎 穴 19



写真21 集 石 1

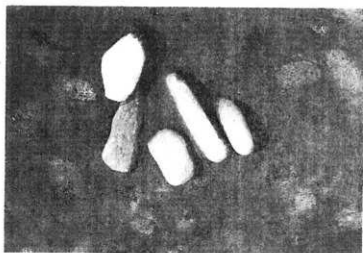


写真22 集 石 4







写真23 土器出土状態



写真24 発掘風景



写真25 住居址の掘もどし

## 下原山北遺跡



写真26 下原山北遺跡 (東から)

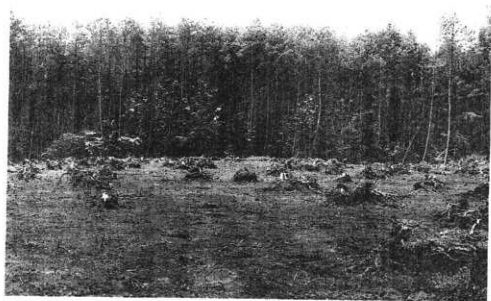


写真27 下原山北遺跡 (西から)



写真28 発掘風景(東から)



写真29 遺構検出地点全景(西から)

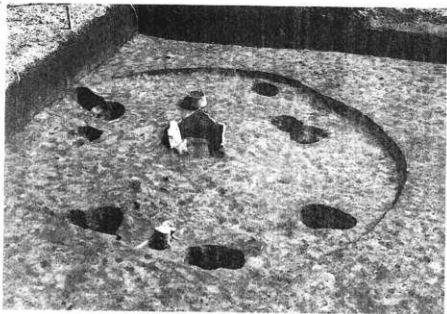


写真30 1号住居址(西から)



写真31 土器出土状態



写真32 埋甕のカッティング



写真33 2号住居址検出状態(南から)

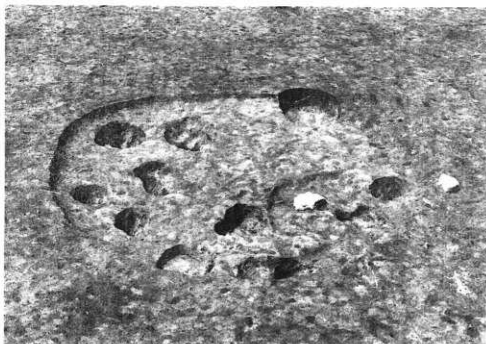


写真34 2号住居址(東から)



写真35 3号住居址検出状態(東から)

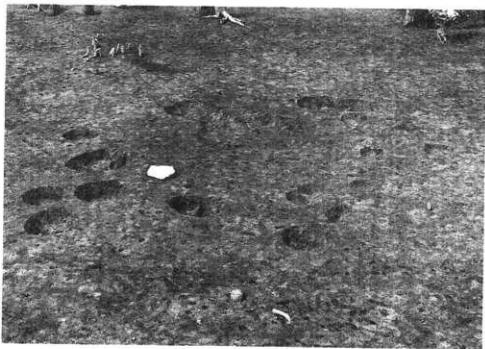


写真36 3号住居址(南から)

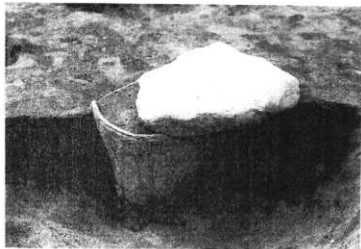


写真37 埋塞の埋設状態



写真38 小 豎 穴

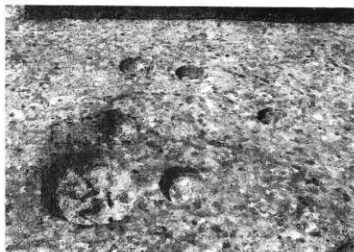


写真39 小豎穴31～35

写真40 小豎穴53・61  
62・63・90



写真41 小豎穴 67

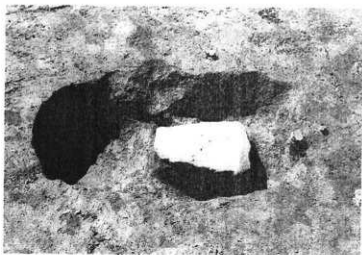


写真42 小豎穴 112  
土器出土状態







写真43 集石 1



写真44 発掘風景



写真45 発掘風景

原村の埋蔵文化財18

**姥ヶ原・下原山南・下原山北遺跡**

(第2次発掘調査)

諏訪南インター原村工業団地予定  
地内埋蔵文化財包蔵地発掘調査概報

発行日 平成2年3月30日

発行 原村教育委員会  
長野県諏訪郡原村

印刷 日本ハイコム株式会社  
塩尻市北小野4724